

加美松通り 学校に現る！！

今の時代は、子ども達の人数が減り、学校の統廃合が進んでいます。ですから、開校から百年を超える学校は本当に少なくなりました。そんななか、加美小学校の前身、加美村立加美尋常小学校は、明治41年開校ですので、加美小学校は、名前を変えながら、今年で114年目になります。

加美小学校は学区の真ん中に学校をつくらうと言うことで、現在のこの場所になったと聞いています。以前あった木造校舎は、有名な建築家である江川三郎八氏が設計した校舎です。江川氏は、国の重要文化財である久世の旧遷喬小学校や、亀岡家住宅など有名な建物を数多く設計しています。（一昨年には江川氏の研究をしている方が、加美小学校に尋ねてこられたこともありました。）

その時代に木造の校舎の前にあったのが、黒松です。当時の写真からは校舎の前面に堂々とこの黒松があります。この光景を覚えておられる方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。

黒松は、その後鉄筋校舎が建てられても、加美小のシンボルとして残されました。卒業写真を見ると、この黒松の下で集合写真が撮られていることもよくありました。当時の写真からこの松の下をたくさん子ども達が通り、集っていたのではないのでしょうか。この松の思い出がきっと卒業生にはあるにちがいないと感じました。

しかし、ランチルームの建設が行われたあたりから、黒松に元気がなくなり、根元を踏んで固めないようにと、周りはフェンスで入れないようにし、子ども達が黒松に近寄れることも少なくなりました。校友会の皆さんのご配慮で樹木医の方に毎年手入れをしていただいてからは、なんとか元気になりました。現在は、学校予算の中から毎年手入れをしています。

わたしは転任してきてすぐの頃、この黒松の話を子ども達にし、大切に根を傷めないように子ども達にお願いしたら、子ども達は、ちゃんとそれを守ってくれています。そこで、これまでこの黒松に親しんできた卒業生のように、今の加美小学校の子ども達にも黒松に親しんでほしいと考え、樹木医の原田さんと相談し、職員と一緒に「加美松通り」をつくりました。運動場に行く近道です。松の根のないところにつくった細い小道ですが、子ども達はちゃんとその道の上だけを通して、松を守ってくれています。この「加美松通り」を通して運動場に遊びに行ったことが子ども達の思い出に残るといいなと思っています。



婦人会のみなさんに

廃油手作り石けんをいただきました！！

加美地区婦人会のみなさんが、廃油から手作りの石けんを作って加美小学校に持ってきてくださいました。大きな塊の石けんは、あらゆるところの洗浄に使えて便利です。本当は今年子ども達と作る予定でした。来年こそぜひ、みなさんとできますように！